

平成7年度ふるさと文化財ふれあい事業

静岡の原像をさぐる

埋蔵文化財巡回展

主催 静岡県教育委員会・(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所
三島市・静岡市・浜松市教育委員会

会場・日時 ◆三島市郷土館 (三島市一番町 楽寿園内)
平成7年10月6日(金)~10月13日(金) 月曜休館

◆静岡市市民ギャラリー (旧静岡市役所庁舎)
平成7年11月21日(火)~11月26日(日)

◆浜松市博物館 (浜松市蛸塚4丁目 蛸塚公園内)
平成7年10月31日(火)~11月7日(火)

11月4・6日休館

埋蔵文化財巡回展開催にあたって

私たちの生活する静岡県は、温暖な気候と豊かで美しい自然に恵まれ、遙か過去から現在に至るまで多くの人々が居住し、活動し、その足跡である埋蔵文化財の遺跡数は多大で、全国的にも有数な遺跡の宝庫であるといえます。

これまでに行われた発掘調査においても、人々の生活の様子を私たちに伝えてくれる様々な資料が出土しており、我が国の東西文化の接点として歴史の上でも多様な豊かさをもっております。

そこで、県民の皆様には貴重な祖先の文化遺産を御覧いただくために、本年度は三島市・浜松市・静岡市の3会場で、近年話題を呼んだ出土品を中心に「埋蔵文化財巡回展」を計画しました。

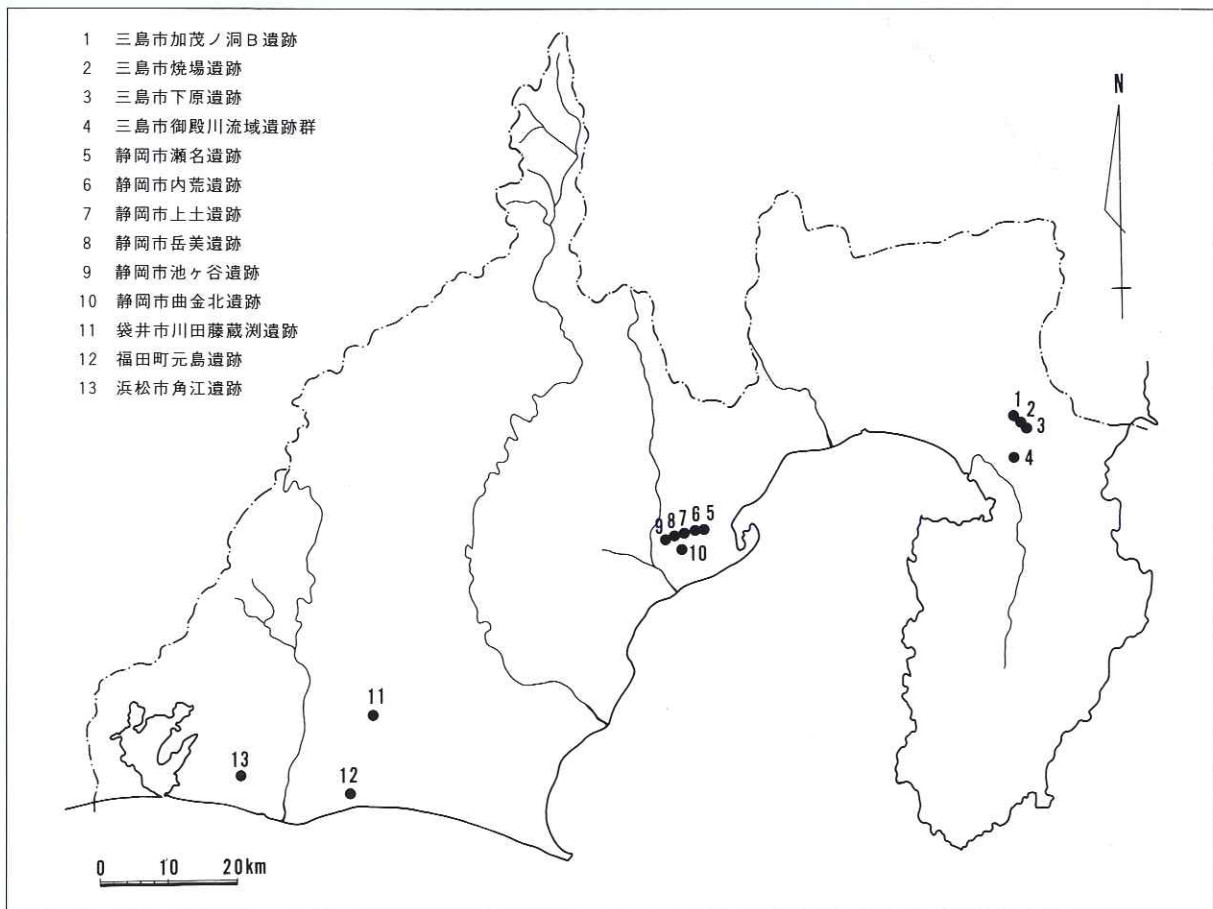
土器のなかった旧石器時代の狩りの様子を伝える落とし穴や石器、西部地域の弥生時代の拠点集落ともいえる浜松市角江遺跡の紹介をはじめ、発掘調査で発見された過去の地震痕跡など、その実物に直面していただく展示も用意しました。

この機会に広く県民の皆様には埋蔵文化財に接していただき、その魅力を感じ、併せてなお一層の御理解をいただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、この「埋蔵文化財巡回展」を開催するにあたり、主催市町村であります三島市・静岡市・浜松市の教育委員会ならびに御支援・御協力をいただきました関係機関の皆様には厚くお礼申し上げます。

静岡県教育委員会教育長
(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所理事長

大野 忠



主要展示遺物出土遺跡位置図

旧石器時代の狩人

アフリカ大陸南東部で人類の祖先が誕生したのは、約360万年前といわれています。そして約150万年前にはアフリカ大陸から他の大陸にも広がりをはじめました。日本列島最古の石器としては、宮城県で約50万年前のものが発見されています。静岡県の最古の例としては、愛鷹山麓において約3万年前の集落の跡が発見されています。

旧石器時代は氷河期と間氷期が繰り返されていた時代で、現在より海水面が数10m～150m以上も低くなっていました。そのため日本列島は大陸と陸続きとなり、ナウマン象やオオツノシカが渡ってきました。旧石器時代の人々はこうした動物を追って狩りをし、短期間のキャンプ生活を繰り返して生活していたと考えられます。三島市焼場遺跡やきばや下原遺跡しもはらでは、当時の狩りに使われた落とし穴や槍の先に使われたと考えられる石器などが発見されています。



三島市加茂ノ洞B遺跡の土坑群



三島市加茂ノ洞B遺跡の土坑（完掘状況）

比べてみよう西の土器・東の土器

稲作が開始され、日本の社会が大きく変化したのが弥生時代です。高床倉庫の出現、石の道具から鉄の道具への転換などがあり、また、「漢倭奴国王」の金印に見られるように大陸との交渉も活発に行われるようになりました。

東西に長い日本列島各地には、弥生文化がどのように広まったのでしょうか。その内容は静岡県を境として西日本と東日本とでは大きく異なり、その中でも各地域によって差のあることが指摘されています。

弥生文化の東西の違いを三島市御殿川流域遺跡群こてんがわと浜松市角江遺跡かくえで出土した土器から見てみましょう。縄文時代の伝統を強く残す東の土器と弥生時代になってから作られた西の土器との比較です。本格的な農耕社会を開始した時代に静岡の古代人がどのように生活していたか、その様子を土器の文様から推察してください。



浜松市角江遺跡出土の土器



三島市御殿川流域遺跡群出土の土器

2000年前の東西文化の接点

—浜松市角江遺跡の出土遺物—

角江遺跡は、浜松市の佐鳴湖の西南に所在する弥生時代中期から後期を中心とする遺跡です。方形周溝墓（人を埋葬した穴の周囲四辺を溝で区画した墓）や水田跡・井戸・河川跡などが発見され、土器や木製品、石製品なども豊富に出土し、弥生文化を語る貴重な資料として注目されました。

「鹿」などの線刻画がある土器、銅鐸形土製品や琴、磨製石包丁、銅鐸の舌などは、西日本を中心とする文化圏の特徴を示すものです。また、東日本の文化圏の特徴を示すものとして、土器の表面に人の顔を立体的に表現した「人面付き土器」も出土しています。角江遺跡は、西日本文化圏の東端に位置し、西の文化と東の文化が混在する接点に出現した拠点集落であったと考えられます。



土器の表面に描かれた「鹿」の線刻画

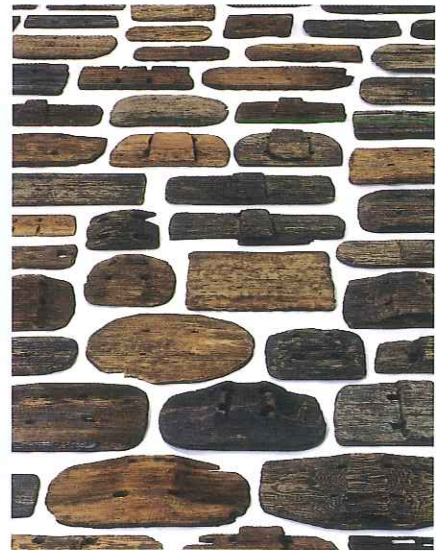


角江遺跡の「臼」出土状況

大昔から続く稲作り

—静岡平野における水田遺構と出土遺物—

静岡バイパス建設工事に伴い、静岡平野北部の遺跡を発掘調査しましたが、そこからは弥生時代から近世にかけての何層にも重なって埋没した水田跡が発見されています。清水市との境に近い瀬名遺跡からは、本地域で最も古い時期と考えられる弥生時代中期の水田跡も見つかっています。また、瀬名・上土・岳美や池ヶ谷などの各遺跡では、律令時代（奈良・平安時代）の条里型水田跡が見つかりました。こうした水田の跡には、杭や矢板で補強した大きな畦や小さな畦、時には足跡が残され、数多くの農具も出土しました。土を掘り起こしたり、ならしたりする「鍬」や「鋤」、軟弱な水田で体が沈まないようにする「田下駄」、堆肥などを水田に踏み込む「大足」などの農具は、稲作を中心とする農業技術を知るうえで大変貴重な資料です。



静岡市瀬名遺跡から出土した大量の田下駄



静岡市瀬名遺跡の弥生時代後期の水田跡

古代東海道の使われていた頃

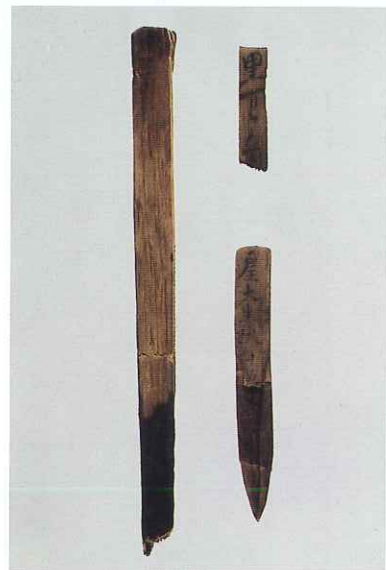
奈良から平安時代の頃は、律令（当時の法律）に基づく中央集権の政治が行われており、中央一国一郡の行政区画が設定されていました。中央と地方を結び、全国支配のための情報の伝達、物資や人の移動が迅速に行えるように、交通路を整備しました。全国を畿内と七道に分けて、交通路を各道ごとに設け、乗り継ぎ用の馬を備えた駅を設置しました。現在の静岡県である遠江・駿河・伊豆の国はこのうちの東海道に属しており、文献によれば、駿河の国には西から小川・横田・息津・蒲原・（柏原）・永倉・横走の駅が置かれていました。

昨年、静岡市曲金北遺跡から一直線に延びる古代の道路遺構が発見されました。大規模な構造をもち、また直線路である点などから当時の官道、東海道とわかりました。この道路遺構は、この付近にあったとされる横田駅から清水市興津付近と推定される息津駅に向かって一直線に延びていたものと考えられます。さらに、その方向は静岡・清水地域で発掘された条里型水田の区画の東西方向と一致し、この地域の条里は古代東海道を東西の基準線として設計されたようです。また、この道は安倍郡と有度郡の境と考えられます。

では、古代の各国の国府はどこにあったのでしょうか。遠江は磐田市御殿・二之宮遺跡？、駿河は静岡市駿府城付近？、伊豆は三島市付近にあったと考えられていますがはっきりしません。郡衙（郡の役所）としては、藤枝市御子ヶ谷遺跡が志太郡衙とわかり、国指定史跡となっています。その他では、浜松市伊場遺跡が敷智郡衙、袋井市坂尻遺跡が佐野郡衙、藤枝市郡遺跡が益頭郡衙、静岡市内荒遺跡が安倍郡衙ではないかと考えられています。こうした遺跡からは、木簡や墨書土器などの字の書かれた遺物や整然とした掘立柱建物跡などの遺構が見つかります。古代東海道を発見した曲金北遺跡でも側溝から木簡や墨書土器など当時の役所に関するような遺物が出土しています。有度郡衙あるいは横田駅が曲金北遺跡の近くに在ったのかもしれませんが。



静岡市曲金北遺跡で発見された古代東海道



古代東海道の側溝から出土した木簡



静岡市内荒遺跡の掘立柱建物跡群

埋没していた地震情報

発掘調査により発見されるものは、過去の人々が残した住居、水田、墓とかの遺構と呼ばれるものや、生活に使用した土器、各種の道具、建築材などの遺物だけではありません。地震の起きた跡や洪水の跡、火山の噴火で降り積もった火山灰なども観察することができます。

今回はこれらの中で、静岡県内各地の遺跡で発見された地震発生を示す資料を取り上げてみました。展示する資料は、噴砂、正断層、逆断層と呼ばれるもので、発掘調査の現地で接着剤を使って土層の断面を剥ぎ取った実物です。特に発掘で発見された地震の跡は、出土した遺物・地層などから、その年代を推定することができます。これが今後の地震予知の資料として非常に有効な材料となるものです。今年の1月に発生した阪神・淡路の大地震は、みなさんの記憶に鮮明に残されていることでしょう。大地を揺るがす地震の迫力を、展示の中から想像してみてください。



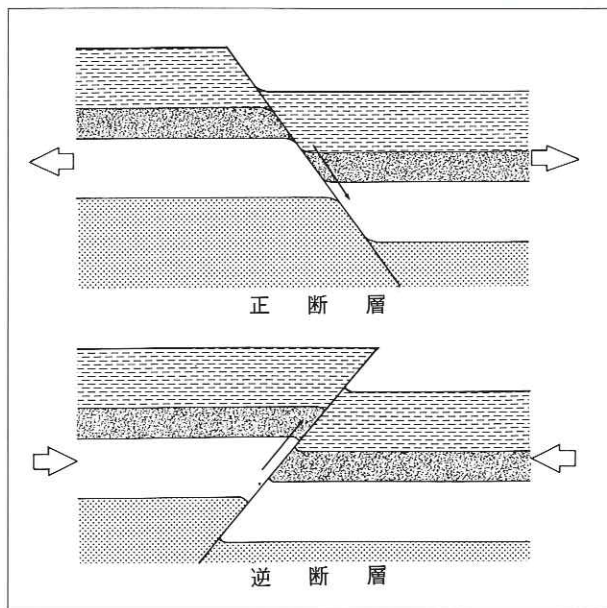
静岡市上土遺跡で見つかった地割れの跡



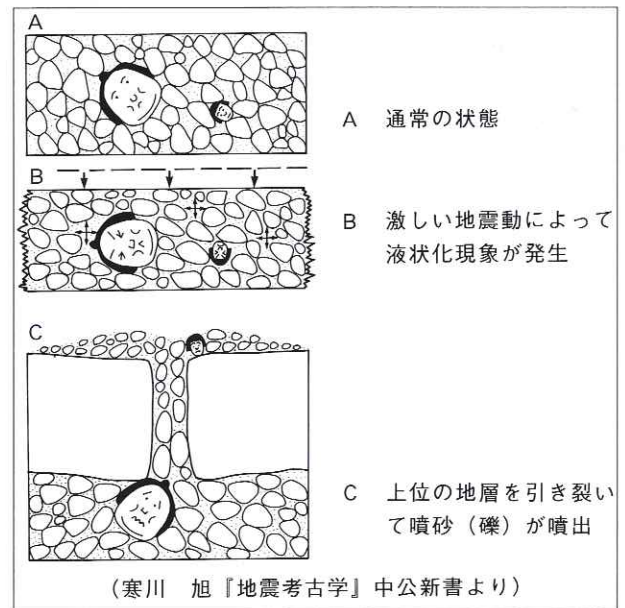
静岡市上土遺跡の正断層の土層断面



静岡市上土遺跡の逆断層の土層断面



正断層・逆断層の模式図



液状化現象の発生と噴砂

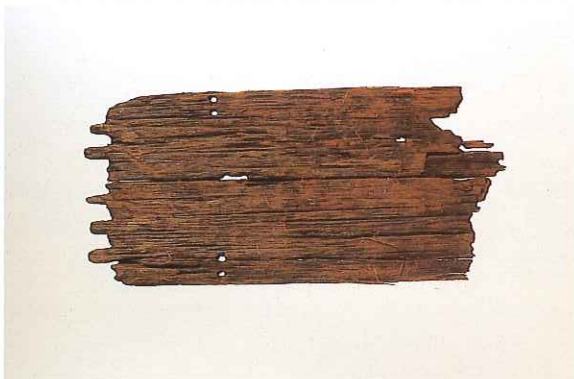
最近話題となった遺跡の発掘調査

ここ1、2年のことで、全国的にもっとも話題となった青森県の^{さんないまるやま}三内丸山遺跡は、これまでの私たちが知っている縄文時代の概念を、大きく変えるものでした。このことを契機に、縄文時代に対する見方を新たにする必要があるというようなことが言われていますが、実は何千年、何万年前の昔のことは、時代が古くなるほどまだあまりよく分かっておらず、少ない発掘調査の情報でいろいろなことを想像している部分が多いのです。

ですから、これからも「日本最古」とか、「日本で初めて」とかいうような発掘調査の新発見のニュースがたくさんあることでしょう。もしかしたら、皆さんの住んでいるすぐそばで、とんでもないものが見つかるかもしれません。近所に発掘調査の現場があったら、現場で調査をしている人の許可を得て、のぞいてみてください。発見の瞬間に立ち会える幸運が得られるかもしれません。

昨年から今年にかけて、県内で話題となった遺跡

遺跡名	時代	所在地	特徴
くず葛原ざわ沢	縄文	沼津市足高	県内最古（約11,000年前）の堅穴住居跡
みや宮たけ竹の野ざわ際	弥生	浜松市宮竹	県内最古（約2,200年前）の水田跡
かく角え江	弥生	浜松市西鴨江	全国初の八弦の琴（約1,800年前）
きた北じんめどて手	弥生～古墳	沼津市足高	弥生末から古墳初頭（約1,800～1,700年前）の大集落
はら原ぞえ添I	古墳	清水市吉川	珍しい水鳥型土器（約1,700年前）
ご五ヶ山B2号墳	古墳	浅羽町浅名	東海地方初の革製盾（約1,500年前）
まがり曲かね金きた北	奈良	静岡市曲金他	古代東海道の発見（約1,200年前）



浜松市角江遺跡の八弦の琴



沼津市北神馬土手遺跡の堅穴住居跡群

歴 史 年 表

50万年前	旧石器時代	前期	日本列島に人（原人）が住み始める	
13万年前		中期		
3万5000年前 3万年前 2万5000年前		後期	石斧・ナイフ形石器など日本固有の文化成立 鹿児島始良カルデラ噴火、東北まで火山灰降る 最後の氷河期のピーク、海面が百数十m低下	
B.C.11000 (1万3000年前)	縄文時代	草創期	土器（縄文）・石鏃の使用が始まる 貝塚の形成、土偶の使用が始まる	
B.C.4000 (6000年前)		早期	気候が温暖化、海水面が上昇、海が内陸に入る	
3000 (5000年前)		前期	各地に大規模な縄文集落が成立	
2000 (4000年前)		中期		
1000 (3000年前)		後期		
B.C.300 紀元前 0 紀元後		晩期	九州北部に水田稲作が伝わる	
A.D.300	弥生時代		青銅器の製作始まる 倭国の内乱が続く 239 邪馬台国の卑弥呼が魏に使いを送る	
400	古墳時代		前方後方墳・前方後円墳の築造開始	堂山古墳 (磐田市) 曲金北遺跡 (静岡市) の小区画水田 賤機山古墳 (静岡市)
500			埴輪を盛んに作り、古墳に並べる 巨大前方後円墳の築造、馬の普及	
600			538 百濟から仏教・教典の伝来	
700	飛鳥時代		645 大化の改新始まる	大北横穴群 (伊豆長岡町)
800	奈良時代		710 平城京に都を移す	曲金北遺跡の古代東海道 御子ヶ谷遺跡 (志太郡銜) (藤枝市)
900	平安時代		794 平安京に都を移す	池ヶ谷遺跡・岳美遺跡・上土遺跡 (静岡市) の条里型水田 上土遺跡の断層
1000			寝殿造り、衣服など日本風が確立	川田藤蔵淵遺跡 (袋井市) の銅印
1200			1107 平泉に中尊寺建立 1192 源頼朝、鎌倉幕府を開く	
1300			鎌倉時代	
1400	南北朝時代			
1500	室町時代			葦山城跡 (葦山町)
1600	安土桃山時代		1596 慶長の大震災 1637 島原の乱	元島遺跡 (福田町) の噴砂跡
1700	江戸時代			
1800	近世・現代			

※表紙の写真は古墳時代中期の小区画水田
(静岡市曲金北遺跡)

平成7年度ふるさと文化財ふれあい事業
静岡の原像をさぐる
 埋蔵文化財巡回展
 平成7年10月6日
 (編集) 静岡県教育委員会
 (発行) (財)静岡県埋蔵文化財調査研究所